



滄水会賞メダル

滄水会ニュース

職業能力開発総合大学校同窓会誌

第16号 平成14年9月1日発行

特集

起業家・企業家・ものづくりに学ぶ その3

企画趣旨

「起業家・企業家・ものづくりに学ぶ」は、3年前から世界経済の急変に対応する知恵を、先輩の提言・生きざまを通じ、会員の皆様に伝えようと企画をスタート致しました。しかし、米国ワールドコムに代表されるような、世界規模の大型倒産等、経済パラダイムの大変動の認識なくして、経済を理解する事は不可能であると言わざるをえません。不確実性は、周期を早め、経済環境は、悪化の一途を辿っています。企画趣旨が、3年を経過した今も、色褪せない事に、背筋の寒い思いのする昨今です。



起業家に学ぶ(1)

日本電産株式会社
代表取締役社長
永守 重信 氏(会員)



起業家に学ぶ(2)

株式会社 アーバネットコーポレーション
代表取締役社長
服部 信治 氏(会員)



企業家に学ぶ

旭光学株式会社 イメージングシステム事業本部
開発センター第一開発設計部長
川崎 雅博 氏(会員)



ものづくりの達人に学ぶ

秋田県利器打刃物工業会
会長
長沼 兼廣 氏

地上の星を求めて・・・

石川県穴水町で、ものづくりの若き実践技術者の育成に携わることになって、2年を経過しようとしている。雇用・能力開発機構のポリテクカレッジでは最も小規模な短大校であるが、学生には、何かキラリと光るものを身につけてもらいたいと常日頃切望している。NHKの人気番組「プロジェクトX」の精神を引き継ぐような、「地上の星」を探し出していきたい。ローマは一日にして成らず。ものづくりを支える技術・技能もまたしかり。そこには必ずと言っていいほど、懸命な努力と汗と涙の結晶がある。これまでの特集で掲載された起業家・企業家・ものづくりの達人に触れるにつき、ポリテクカレッジの卒業生も必ずや「地上の星」になれるものと確信している。厳しい日本経済の中で、21世紀のものづくりを支える若き実践技術者を送り出すことのできるこの仕事に、喜びと感謝の気持ちを抱き、これからも頑張っていきたい。



森嶋 武(副会長)
(第3期板金溶接科卒)

起業家に学ぶ

(1)

もっとベンチャーを興せ!

日本電産株式会社
代表取締役社長 永守 重信



(第3期電気科卒)

日本の景況感はいっこうに上向かず、大企業を中心とした人員リストラは厳しさを増してきている。そしてその結果として失業率はじりじりと上昇し、雇用不安は増幅されつつある。特に国内製造業の縮小はどんどん進み、中国や東南アジア諸国への移転があとを絶たない。このまま行くと日本の物づくりはどうなってしまうのだろうか!。

確かに欧米諸国でも過去歴史的に日本と同じ様なことが起きてはいる。しかしその後の産業構造の変化が新しいマーケットを創り出し、新しい事業を生み出していった。即ちベンチャースピリットを持った若き事業家が新しい会社を興し、多くの雇用を吸収していくことにより、その国に新たな活力を生み出していった。特にアメリカでは大企業をスピンアウトした人材によって、1980年代以降ハイテクベンチャーが続々生まれ、新たな雇用を生み出していったことは記憶に新しい。

しかるに日本はどうか! 1970年代の第1次ベンチャービジネスブームから何回かにわたりその期があったことはあった。しかしアメリカのような国家の活力を生み出すようなベンチャーが続出することはなかったのである。それは何故だろうか! 官民あげてのベンチャービジネス応援態勢もできあがっているし、ベンチャー創業に必要なお金やスペースについても過去とは全く違う環境が整っている。しかし肝心かなめのベンチャー精神を持った



創業工場の写真

若き创业者が出てこないののである。

日本の永年の社会的評価基準が根強く残っている今日、今なお「一流大学に入って一流企業に勤めるという文化」が邪魔をしているように思えてならない。小学校、中学校から遊び時間も惜しんで塾に通い詰めて、ひたすら一流大学を目指し、そこを卒業したら迷わず一流大企業に入って平穩無事な生活を送ることが成功への道であると教えられてきた若者たちにとって、リスクを伴うベンチャービジネスへの挑戦はまさに危険=ベンチャーそのものであるのだろう。まずこの文化を破壊しなければ日本に本格的なベンチャービジネスブームなどおきえぬと思われる。

Voice 滄水会のますますの発展を祈念します



トック・エンジニアリング株式会社

世紀をリードする

金属探知器(アルミ包装内検知)

マグネット装置 リサイクル機器

代表取締役社長 隅井 努 第3期鍛造科卒

〒190-1222 東京都西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎東松原 26 番地
TEL 042-556-1989 FAX 042-568-0560
http://www.aalies.jp/~toktok/ E-メール toktok@aa.alies.or.jp

Voice 卒業生の一層のご健闘を祈ります

大東産商株式会社

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 2 丁目 17 番地

山梅ビル6階

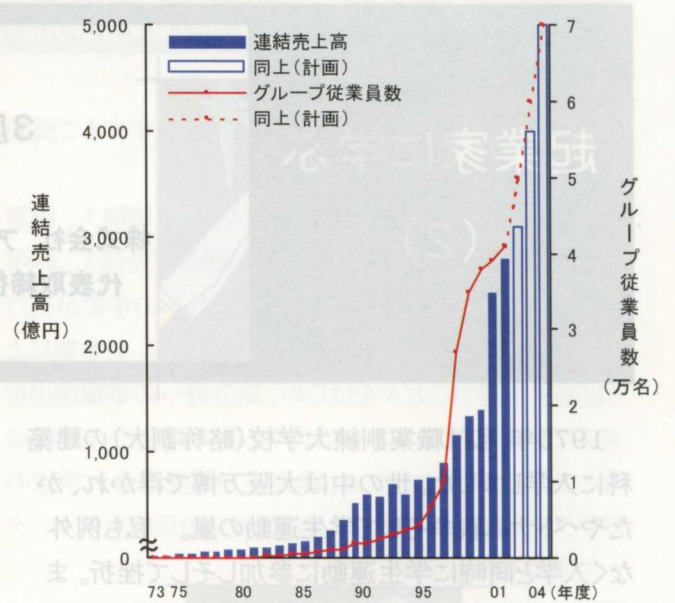
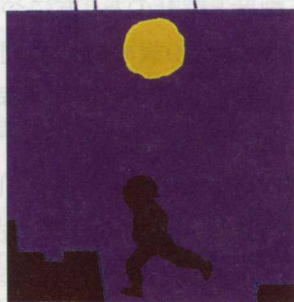
TEL 03-3257-0661

FAX 03-3257-0640

私が1973年に日本電産を創業すると決めたときも、同じ様な反応が母親や妻、そして親戚や知人から返ってきた。「そんな危ないことはやめて欲しい。折角良い会社に勤めているのだからそのまま一生を送ればよいではないか。」と説得された。しかし固い決意が新しい会社をスタートさせたが皆が心配してくれたとおり予期しえぬハプニングが次々と起こり、創業時には倒産寸前への危機が何回となく訪れたものである。そしてそれを乗り越えた今日40000人以上の直接雇用と、100000人以上の下請けを含めた間接雇用を生み出している。その上最近の大企業の人員リストラに対して既に500人以上の吸収効果も出ている。一つの企業の創業がその後いかに大きな雇用を生み出し、社会に活力を与えているかの好例だと自負している。

ベンチャーを興せる人材をもっと生み出すためには、アメリカ社会のようにベンチャーを興す人物を尊敬する風潮が必要である。そして先に述べた「いい大学、大企業へ進みたがる文化の破壊」だけではなく、さらなる直接金融の拡充や税制の改革等が必要であると思う。銀行から個人保証をしてまでお金を借りて会社を興して、失敗すれば全てを失い再起不能になる社会構造では、リスクを負う人も出てこなくなるだろう。間接金融中心の創業ではリスクが高すぎる。一方個性ある人材の育成、さらに飛び越えて変人を敬う社会評価構造こそがベンチャー精神溢れる人物の排出に欠かせないものだと考えなければならない。

新しい技術や新しいビジネス発想というものは常識からは絶対生まれない。あの人は少しおかしいといわれる人物こそが革新的創造をするものである。京都はベンチャービジネスのメッカだといわれているが、創業者の顔ぶれを見ると「少しおかしい」といわれる人物が多い。時折京都の主たる企業の創業者が集まると互いに「おまえは



連結売上高 & グループ従業員数推移

世界一の変人だ！」と言い合って大笑いしているが、各人から発せられる創造的意見には学ぶところが多いものである。誰から何をいわれても信念を貫き通す人しか成功への道を歩めないのかもしれないが、一流大学や一流企業に入れなくても自ら会社を興せばそれ以上の成功の道が待っていると考える人がもっと出てきて欲しい。そうした人がこれからの日本を創り、そこへ活力をもたらすものだと確信している。

企画のねらい

会長には今回で3年連続、起業家の立場で寄稿戴いて居ります。経済パラダイムの大変動・不確実性の大振幅に対応できる、普遍の原則をテーマに、変革に最も必要な要素について、寄稿戴きました。



起業家に学ぶ

(2)

3度目の起業

株式会社 アーバネットコーポレーション
代表取締役社長 服部 信治



(第10期建築科卒)

1970年、私は職業訓練大学校(略称訓大)の建築科に入学しました。世の中は大阪万博で浮かれ、かたやベトナム戦争そして学生運動の嵐。私も例外なく入学と同時に学生運動に参加しそして挫折。また学生運動をやりながら音楽活動、バンド結成、そしていろんなバイトを通して実社会を垣間見た日々。私の学生時代は大学受験のすべり止めで出会った「建築」と言う分野以外での自分の可能性探しに揺れ動いた4年間でした。結局4年間で自分に合う別の分野に出会うことはできませんでしたが、卒業の間際に自分の道は建築設計業界しかないとの覚悟がやっと出来上りました。就職先を決める際に、設計業界で生き抜き、東大や早大建築科卒業生にも負けず第一線で活躍するにはどうしたらいいのか。いろいろ悩んだすえ訓大で学んだ「科学、技術、技能の一体化」とそれを生かす「ソフト(マネジメント)」の両方を学ぶために、建築設計を学ぶのと同時に不動産について学ぶことが必要ではないかと考えました。

建築設計を志望するほとんどの人が設計事務所に就職する中、私はマンションデベロッパーの設計部に就職しました。私は就職をして初めて建築の勉強を真剣に、必死に取り組みました。また不動産の勉強も同時に取り組み在籍2年半で、建築がどのように始まり、進行して、完成するのか。資金がどのように動き収支がどうなるのか。つまり短期間で「商品としての建築」の全体像がほぼ自分なりに理解できました。

その後私は設計事務所に就職し、2年間建築のディテールの勉強と実施図面の作成に従事する中、一級建築士の免許を取得し、27歳で一回目の起業にいたったのです。若さとバイタリティで経験不足を補い仕事は順調に受注でき、小さいながらも自分の



アジュールコート三軒茶屋

城が持てたと言う満足感と、このまま小さい設計事務所ですべて終わらせないというジレンマとの狭間で揺れながら2年が経過しました。

そんな折最初に就職したデベロッパー時代の上司と再会し不動産と設計のあり方について意気投合。互いの会社を解散し29歳の時に共同で新会社を設立し2度目の起業をしました。私は共同経営者としてマンションの企画、設計、営業のすべてに携わり、会社の売上は多い年には60億に達しました。5人でスタートした従業員も50名となり順調に成長するかと思えた矢先、バブル崩壊の波に襲われました。我々の業界も例外なく打撃を受け多くの会社が倒産する中、不良資産をすべて売却し、1997年の決算で黒字に転換できました。しかしバブル崩壊後の会社立て直

しの過程で、私と共同経営者との間で経営方針に食い違いが生じ、私は葛藤の末ついに3度目の起業を決断しました。今回の起業については本当に迷い悩んだ末の決断でした。一つには18年育ててきた会社と部下への愛着。一つには建築業界の倒産とリストラの嵐のなかで47歳にして年収3000万の地位を放棄し、一からやり直すことへの不安。……私が迷っているさなか予備校を経営していた親友が癌で倒れ亡くなる直前私に「こんなに早く自分の最後がやってくるとは思わなかった。服部、いつ最後がきても後悔しないように生きてくれ」と言った言葉が頭を離れず、私は残された自分の人生を賭けて3度目の起業を決断しました。

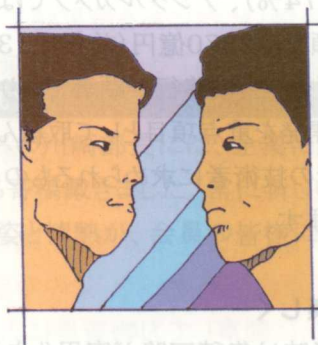
1997年7月、3人の部下に声をかけ株式会社アーバネットコーポレーションはスタートしました。人と環境にプラスとなる経営という設立趣意のもとマンションの設計、企画を中心業務として、設立以来5年間で37棟2409室のマンションの設計を手がけてきました。人と人、情報と情報のネットワークを生かし、アウトソーシングを進め、小人数で大きな成果をあげることを目標に、今期はグループ3社15名の社員で売上10億、経常利益1億3千万を計上することができました。そして念願であった自社分譲事業のアジールマンションシリーズもスタートし現在4プロジェクトが進行中です。私は「ハードとソフトが揃ってはじめてマンションには命が与えられる」との考えから、「住空間とアートの融合」「家族構成の変化に対応するマンション(特許出願中)」「マンション内での介護機器の導入(特許出願中)」等をおり込んだ当社ならではの提案をしています。

日本経済が長期低迷するなか、単なる「物づくり」のハードにいかにもソフトを融合させるかが21世紀に



グランアジール百合丘

「製造業立国」の復活をはかる上で最も重要なことではないかと思ひますし、私も3度目の起業の理念であるハードとソフトの融合を進め、日本の住空間の充実と向上のために残りの人生をかけていこうと思っています。



企画のねらい

ゼネコンのビジネスモデルが崩壊する現代にあつて、同じ市場を見る角度を変える事により、多くのビジネスチャンスを作り出し、成長を続ける服部社長に、その秘訣を寄稿戴きました。

Voice 滄水会のますますの発展を祈念します



私達は、デベロップメント・コンサルティング・プランニング・デザイン等、住空間づくりをあらゆる角度から見つめ続けている企業です。



株式会社 アーバネットコーポレーション
株式会社 アーバネット設計連合

URBAN net 代表取締役 服部信治 (第10期建築科卒)

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-5-1ダヴィンチ新宿御苑6F

TEL 03-3351-5541 FAX 03-3351-5549

E-mail hattori@urbannet-design.co.jp

URL <http://www.urbannet-design.co.jp/>

企業家に学ぶ

企業の中での技術者

旭光学株式会社
イメージングシステム事業本部 開発センター
第一開発設計部長 川崎 雅博



(第7期第二電気科卒)

「旭光学」は大正8年創立の会社ですが、昨今の社会状況と同じく昨年度は「中期経営革新計画」を実施し、平成14年10月に総合的なブランド力を強化する目的で「ペンタックス」に社名変更しこれを機に新たな飛躍を計画しております。

カメラ業界の現状ですが、平成14年の1月～5月の銀塩カメラの出荷台数は877万台、金額では757億円(前年比74%)、デジタルカメラでは出荷台数692万台、金額では2370億円(前年比138%)であり、銀塩からデジタルへの移行が顕著であり当社もデジタルカメラの開発を重点項目として取り組んでおります。企業のなかでの技術者に求められるものについて記したいと思います。

1. 仕事は楽しく

私の入社当時は集積回路が実用化され始めた段階でしたが、1つの回路を設計するのに何十倍もの設計、実験を繰り返し最適化していく、特に難しい回路がうまくいくと非常に楽しい。当時は回路シミュレーションなどなかったが何機種かの回路設計をやっていると頭の中で温度特性、電圧特性等がシミュレ

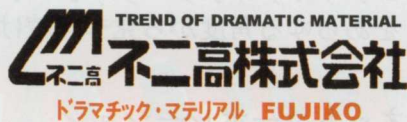
ーションできるようになり理論と結果が一致するようになった。電機メーカには旭の回路を信用して集積化してもらったし、20年ぐらい後同業メーカにあの回路は勉強させてもらいましたといわれたこともあった。それ以降電気業界の進歩を先取りする形でカメラに積極的に採用し色々工夫をして進歩してきました。

技術の変革は今までは5年に1回ぐらいの周期でおとずれました、これに対する私の対処方法は泊まり込み戦略です。1日2倍の時間があれば色々なことを検討でき、その変革を乗り越えた事が後で楽しみとなります。

2. キーマンになれ

昨年よりデジタルカメラを担当することになり、今年4月自社開発の商品を無事発売することが出来ました。経験の少ない中これを可能にしたのは一人のキーマンの存在が大きかったと思います、彼は独自でRTOS、C++、画像処理を勉強しデジタルカメラをやりたいという強い意欲があったからです。彼をリーダーとして約20人のメンバーが、何人かは会社に何ヶ月も泊まり込み(泊まるといっても床に寝袋で寝るので

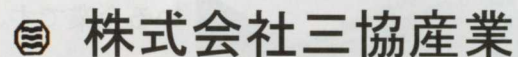
Voice 卒業生の一層のご活躍を祈ります



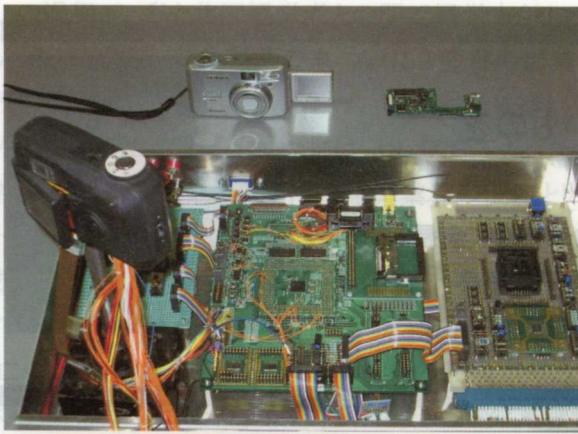
代表取締役社長 高島規嘉 第5期木材加工科卒
〒410-0871 静岡県沼津市西間門 15-1
TEL 0559-24-2000(代) FAX 0559-24-2062

Voice 滄水会の益々の発展を祈念します

すえ永く美しいUV塗装 



代表取締役社長 河野益己 第10期木材加工科卒
本社 広島県福山市柳津町 2406-2 TEL 0849-33-3371
第1工場 広島県福山市南松永町 4-11-4 TEL0849-33-4902
第2工場 広島県福山市南松永町 3-4-30 TEL 0849-33-0203



すが)、何人かはいつも終電で帰るという最大限の努力の結果完成しました。誰にでもモチベーションと努力さえあればキーマンになれるチャンスはある。その結果が自信になり、また次のチャレンジにつながります。

3. 仕事以外でも積極的に行動しよう

会社では仕事以外にも熱中した事が色々あります。山・スキー・テニス・バレーボール等々(スポーツ系が多いですが)、たとえばバレーボールですと毎年1回社内対抗があったのですが2~3ヶ月前から毎日練習し練習が終わっては飲み会に行く、だんだんエスカレートしてユニホームを作り優勝、工場との対抗戦でも優勝ということもありました、最近はみんなで楽しむ機会が減って残念ですが。私自身はその後地域のママさんバレーチームのコーチを18年続けていま



滄水会ニュース(職業能力開発総合大学校同窓会誌)です。いくら仕事があってもやはりストレスはある、「仕事も遊びも」「仕事も家庭も」大切にしてこそストレス発散になり、仕事に打ち込める環境になると思います。

当社は、デジタルカメラは後発ですので攻めの姿勢でよい物をどんどん開発していきたいと思っています。



企画のねらい

ペンタックスの川崎部長には、企業に勤める技術者の立場から寄稿戴きました。常に新しい課題にチャレンジする姿と情熱が、会員の皆様に伝わればと思います。

Voice 滄水会、能開総合大の発展を祈ります


訓大→能開大→能開総合大を胸に **未来へ!**

代表取締役社長 **小路 幸市郎** (電気科 第17回卒)

衛 建平 (電気科 第21回卒)

野崎 隆 (運輸装置科 第26回卒 / 研究機械 第2回卒)

三浦 秀朗 (情報工学科 第31回卒)

 **SCIENCE PARK**

デバイスドライバ開発のプロフェッショナル

サイエンスパーク株式会社

〒228-0024 神奈川県座間市入谷1-1538-11

TEL 046-255-2544 / FAX 046-255-0319

<http://www.sciencepark.co.jp/>

ものづくりの 達人に学ぶ

人より良いものを

秋田県利器打刃物工業会 会長

現代の名工 長沼 兼廣



私は大東亜戦争最中の昭和 19 年3月尋常高等小学校を卒業しました。当時は戦時一色の中で満蒙開拓義勇軍か軍需工の就職か少年兵志願より社会に出る道が無かった時代でもありました。父は長男が少し足が不自由であり農業の跡継ぎに不安もあったため、私には遠くに就職を希望させず地元の軍需工場(秋田製鋼株式会社)に就職・入社させました。少年工の社内訓練工として製鋼法を学ぶとともに、配転された職場(社内にある溶鉱炉で使用する工具・器具の製造修理等)で、鍛造・溶接の技術を学ぶ事ができました。

昭和 20 年の敗戦とともに、軍需工場は一転平和産業への衣替えを余儀なくされたため、入社1年9ヶ月で退社を決意し、会社で習得した鋼(ハガネ)のメカニズムを刃物に活かすべく、父の希望もあり牛島の佐藤豊吉氏に師事して刃物業界に入りました。終戦直後の物資不足時代でしたので製造した刃物は飛ぶように売れた時代でした。けれど弟子修行8年目の昭和 30 年頃から、徐々に農業の機械化が進み、旧来の牛馬農耕から機械による生産形態へと変化していきました。そのため、徐々に手農具である草刈鎌等の需要が少なくなって業界でも何等かの改善策が必要になってきました。そこで、私は人より「良い物



作り」に取組み始めた自分の技術を認めてもらうために、秋田県商工祭工業振興展、秋田市工芸展、北日本中小企業振興展に積極的に出品し上位入賞をはたしました。さらに鍛造打刃物業としての地位を築きながら他産地の視察、山形米沢の鎌工場での研修、三条市、大阪堺市、四国の土佐刃物等の見学を通して設備の改善と従来の刃物の欠点の改善に取組み始めました。

従来の伝統的打刃の優秀性は素材の軟鉄炭素鋼の資質を高度な鍛接鍛造焼入れ技術等により製品化されてきたものです。しかし、その素材が極めて酸化しやすいため、宿命的に錆腐食が発生し、その防止には従来より様々な工夫努力がなされてきまし



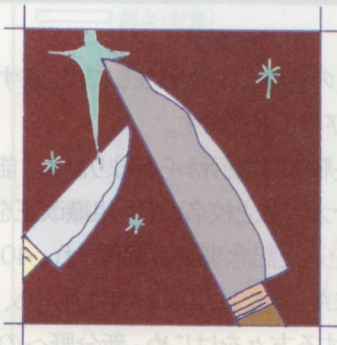


左:当工場打ちステン込包丁 右:腐食した従来型の包丁

たが、非常に困難を伴うものでした。近年この宿命的な錆腐食に強いステンレス鋼が開発されましたが、この素材は硬度が高く加工が困難な上、特に高度な切れ味を追求する刃物においては従来の炭素鋼には及びませんでした。そこで刃物分野では従来ほとんど考慮されていなかった異鋼材を溶接するという技能(刃部には炭素鋼、それ以外の部位にはステンレス鋼という極めて理想的な素材製成)を全国に先駆けて開発し製品化しました。またこのような発想と高度な技量とともに、包丁等のような薄刃刃物柄部の耐腐食性の改善により近年医学用の刃物打研磨もおこなっています。ステンレス鍔に至っては半数以上がこの製法となっています。

その他秋田県では 15 年位前から毎年特産品開発コンクールが行われており、私の開発出品したステンレス一枚抜き鍔、ステン込み包丁、刃紋入山刀、磨き鉈、ミニ鍔セット等が入賞しております。これらの製品は当工場以外どこにもありません。ステン込包丁の場合は、特許も取れると言われていますが、製造技術はもちろん材質指導、経営指導に至るまで幅広く指導するため、あえて特許は取らず技術公開して後進の指導育成をしてみたいと思っております。

手作業道具需要の減退等全国各地の産地においても現在は昔の1/4位の従事者、それもほとんど50歳以上の方だと聞いております。鍛造技術の難しさと合わせ、10年~20年度には打刃物が姿を消し、複合鋼材使用の修理技術者もいなくなり、駄目になったらスーパーで買うという使い捨て時代になるのではないかと心配するのは、私だけでしょうか。



企画のねらい

秋田県の打刃物の達人 長沼 兼廣氏に寄稿をお願いしました。過去の環境の変化を乗り越えた達人の知恵が、現代社会の対応に苦しむ会員の指針となればと、思います。

Voice 滄水会、能開総合大の益々の発展を祈ります

富崎・円城寺特許事務所

所長 富崎元成 弁理士 第7期機械科卒

〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目13番4号

T・Sビル2階

TEL 03-3504-1305(代)

FAX 03-3504-1306

滄水会(本部)からのお知らせ

滄水会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

母校は中央職業訓練所から始まり訓大、能開大、職業能力開発総合大学校と校名改称・組織改正を経て、昨年設立40周年を迎え記念事業が開催され、40年史が刊行されました。また、新たに平成14年4月から、新事業により起業を希望する方々をはじめ、新分野への事業進出を考えている事業主の方々に対する能力開発や人材養成等の支援を実施するため、職業能力開発総合大学校のサテライトキャンパスとして、起業・新分野展開支援センターを東京田町に開設しました。

●滄水会総会について

滄水会総会及び記念講演が次の通り行われる予定です、ご多忙とは存じますが、お誘い合わせの上ご出席のほどお願い申し上げます。会員の皆様には別途ご案内をさせていただきます。

日時:10月19日(土)13時~17時

会場:京王プラザホテル(新宿西口)

記念講演:野村東太(ものづくり大学学長)

●滄水会本部活動報告

(1) 母校40周年記念事業への協力

滄水会として初代校長成瀬政男氏の胸像台を寄付させていただくとともに、研究発表会において優秀なポスター発表に副賞を贈りました。

(2) 滄水会名簿の発行

皆様からの賛助金、広告等へのご協力により、滄水会名簿を発行することができました。

(3) 滄水会賞の授与 平成13年度卒業式

平成14年3月20日(水)卒業式に引き続き、第7回滄水会

賞授与式を挙行了しました。滄水会賞として富崎副会長から、女子学生2名を含む8名の卒業生に記念メダルをはめ込んだ賞状を贈るとともに、長期課程卒業生および研究課程修了生全員に祝辞が述べられました。また、続いて開催された卒業祝賀パーティーでは、滄水会より寄贈した二斗樽を囲んで鏡割りが盛大に行われました。



第7回滄水会賞受賞者

中澤 満	(産業機械工学科)
木村 寛路	(生産機械工学科)
石垣 真吾	(電気工学科)
中山 伸一	(電子工学科)
加藤 淳	(情報工学科)
佐々木 禎枝	(建築工学科)
武富 成史	(造形工学科)
浅井 協子	(福祉工学科)

●住所変更等のお願い

滄水会ニュースの送付および名簿作成時の正確性を維持するため、会員の皆様の住所変更等がございましたら滄水会事務局までご連絡をお願いいたします。

滄水会事務局

〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台4-1-1

職業能力開発総合大学校内 滄水会

FAX 042-763-9267 E-mail:sousui@uitech.ac.jp



世界の頂点に立つ

超精密駆動技術の

Nidec グループ

Nidecグループは、超精密小型駆動技術の世界の頂点に立っている。

創業から、わずか29年、国内外の事業所68カ所、グループ売上高3,200億円、社員数45,000人の若さあふれる企業集団は、全く他の追随を許さない邁進を続けている。



中央開発技術研究所(2003年3月完成予定)

日本電産株式会社

代表取締役社長 永守 重信 (第3期電気科卒業)

〒615-0854 京都市右京区西京極堤外町10 <http://www.nidec.co.jp>

企業情報 公共事業 設備管理 産業用機器 用家 省エネルギー 海外展開

編集後記

「起業家に学ぶ・起業家に学ぶ・ものづくりの達人に学ぶ」の特集を組んで3回を数えることができました。ひとえに寄稿して下さった皆様方のご協力の賜と編集委員一同感謝しております。

景気の底は見えてきたといわれてから数年たちますが、いまだ、日本経済の先行は依然として不安を隠しきれません。しかし、それを払拭して景気を立て直し、右肩上がりの成長を期待するのは決して夢ではありません。日本の技術と技能は、世界の最先端に位置しています。長いトンネルを抜け出るのは自信と勇気と創造(想像)を持てばよいのではないのでしょうか。今回寄稿して下さった、皆様のあつき情熱を感じていただき、今後の発展のきっかけになれば幸いです。

滄水会ニュース(職業能力開発総合大学校同窓会誌)編集委員：前川秀幸・鈴木孝廣・赤松 明 イラスト：赤松 茜

滄水会

発行日：平成14年9月1日 発行者：滄水会会長 永守 重信

〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台 4-1-1

FAX 042-763-9267 E-mail:sousui@uitec.ac.jp

職業能力開発総合大学校 創業サポートセンター

●起業・新分野展開に関して

- ①相談したい
- ②情報がほしい
- ③技術・能力を向上させたい
そんなときに！！

グリーンと身近に、
あなたのサポート隊。

起業したい！
新分野に進出したい！
あなたのヤル気を、あらゆる面から
サポートします。



◆相談内容と時間

平日は9:15~21:00までオープン!
土曜日は9:15~17:30まで。

分野	専門家	相談時間	月	火	水	木	金	土
公的助成・ 支援相談	当センター 職員	午前 9:15~13:00	●	●	●	●	●	●
		午後 13:00~17:30	●	●	●	●	●	●
		夜間 17:30~21:00	●	●	●	●	●	●
起業・創業 一般相談	中小企業 診断士等	午前						
		午後						
		夜間 18:00~20:00	●	●		●	●	
技術相談	技術士 (兼診断士) 総合大教員等	午前						
		午後 14:00~16:00	●		●		●	
		夜間						
資金相談	公認会計士等	夜間 18:00~20:00	月2回程度					
特許相談	弁理士等	夜間 18:00~20:00	月2回程度					

※技術相談は、機械(月曜日)、電気・電子(水曜日)、情報工学(金曜日)を予定しております。

※資金相談、特許相談の開催日時はお問い合わせください。

※ご相談はお一人様1時間を上限に、すべて無料で実施します。

※相談カウンターで相談票を作成いただき、

専門家のプロフィールを確認後、ご予約をいただきます。

※相談時間は変更の可能性がありますので、ご確認ください。

創業サポートセンターは、厚生労働省、雇用・能力開発機構が運営する公共施設です。



- JR山手線・京浜東北線「田町駅」西口より徒歩3分
- 都営地下鉄三田線・浅草線「三田駅」A3出口より徒歩2分

〒108-0014 東京都港区芝5丁目26番20号
建築会館7F

TEL: 03-5439-5551

FAX: 03-5439-5085

<http://e-support.ehdo.go.jp/>

◆ 毎週水曜日(18:30~20:30) 公開講座
無料にて、好評開催中!!

◆ 8月から企業家養成セミナー20コース有料
にて開催中!! (平日: 18:30~20:30
土曜日: 10:00~17:00)

NOKAIDAI
職業能力開発総合大学校

〒229-1196

神奈川県相模原市橋本台4-1-1

TEL: 042-763-9005

FAX: 042-760-9011

URL: <http://www.uitec.ehdo.go.jp/>